

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
仏教学部	禅学科	夜・通信	16		16	32	13	
	仏教学科	夜・通信			16	32	13	
文学部	国文学科	夜・通信	18		16	34	13	
	英米文学科	夜・通信			8	26	13	
	地理学科 地域文化研究専攻	夜・通信			13	31	13	
	地理学科 地域環境研究専攻	夜・通信			13	31	13	
	歴史学科 日本史学専攻	夜・通信			20	38	13	
	歴史学科 外国史学専攻	夜・通信			16	34	13	
	歴史学科 考古学専攻	夜・通信			18	36	13	
	社会学科 社会学専攻	夜・通信			10	28	13	
	社会学科 社会福祉学専攻	夜・通信			24	42	13	
	心理学科	夜・通信			19	37	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	18		22	40	13	
	商学科	夜・通信			18	36	13	
	現代応用経済学科	夜・通信			18	36	13	

法学部	法律学科 フレックスA	夜・通信	18		24	42	13	
	法律学科 フレックスB	⑨夜・通信	18		16	34	13	
	政治学科	夜・通信	18		14	32	13	
経営学科	経営学科	夜・通信	18		22	40	13	
	市場戦略学科	夜・通信	18		16	34	13	
医療健康科学部	診療放射線技術 科学科	夜・通信	4		24	28	13	
グローバル・メディア・ スタディーズ学部	グローバル・メデ ィア学科	夜・通信	18		24	42	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

全科目について作成されるシラバス内に、「実務経験がある教員による授業科目」という項目を設け、該当する科目はこの欄に実務経験がある教員による授業科目である旨記載する。シラバスは大学ホームページ上にて学外を含めて公表している。

駒澤大学ホームページ> (シラバス (講義内容))

https://www.komazawa-u.ac.jp/~kyoumu/syllabus_html2024/index.html

※検索ボックスに「実務経験」と入力して検索することで、実務経験を有する教員のシラバスが表示される。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/official.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	曹洞宗宗議会議員	2022.11.1～ 2026.3.31	経営計画の策定
非常勤	曹洞宗宗議会議員	2022.11.1～ 2026.3.31	①組織運営体制のチェック機能 ②経営計画の策定
非常勤	曹洞宗宗議会議員	2022.11.1～ 2026.3.31	教学運営全般のチェック機能
非常勤	元証券会社役員 駒澤大学同窓会会長	2022.4.22～ 2026.4.21	財務・資金運用への助言
非常勤	弁護士	2023.3.1～ 2027.2.28	①法務対応への助言 ②教学運営全般のチェック機能 ③組織運営体制のチェック機能
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全ての授業科目について、前年度の 11 月に各教員に対し、「シラバス作成ガイドブック」に基づいたシラバス作成を依頼している。シラバスには、授業概要・到達目標(ねらい)・授業スケジュール・準備学習・成績評価の方法などの項目が含まれている。作成されたシラバスは各学部学科主任等または各研究科の専攻主任による第三者チェックを経た上で、毎年年度開始直前の 3 月末に本学ホームページで公開され、学生ポータルサイトでも履修登録開始までに閲覧可能となる。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>駒澤大学ホームページ> (シラバス (講義内容)) https://www.komazawa-u.ac.jp/~kyoumu/syllabus_html2024/index.html KONECO (駒澤大学学生向けポータルサイト) (要ログイン ID) https://koneco.komazawa-u.ac.jp/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>次年度シラバス作成時に、全教員宛に配付する「シラバス作成ガイドブック」にて、成績評価方法(項目と割合)を具体的に記述するよう指示している(全ての科目について入力必須)。固定表示された「試験・レポート・小テスト・平常点」に加えて他に 4 項目まで追加でき、必要な評価項目にのみ割合を入力して合計を 100%とする。その配分に則り、教員は成績評価を行う。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価におけるGPA等の客観的な指標は、履修要項・大学HP・学生ポータルサイト等に掲載し公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績は、各科目を「S A B C F 空欄 T」によって評価され、予め定められたGPAの値によって算出される。 ・GPA算出式については、以下の通り設定している。 $\frac{S \text{ 修得単位数} \times 4.0 + A \text{ 修得単位数} \times 3.0 + B \text{ 修得単位数} \times 2.0 + C \text{ 修得単位数} \times 1.0}{\text{履修した科目の総単位数 (F・評価のない科目を含むが評価 T(認定)は含まない)}}$ <p>成績の分布について、厳正化を図るため、ガイドラインにて、Sが5%、Aが30%程度と目標値を設定しており、成績評価登録時に科目担当教員へ分布を開示している。また、学部単位の成績分布については、教務委員会にて報告されている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>履修要項 (HP 版)</p> <p>https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p> <p>駒澤大学ホームページ>成績について</p> <p>https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/test-result/examination-result.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

以下のとおり、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、大学ホームページや履修要項で公開している。さらに、学生の修得単位数等が記載された判定資料を元に、3月に開催される各学部教授会において、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に鑑みて成績ならびに卒業の判定を行っている。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

駒澤大学は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学部学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を实践する力〔主体性・多様性・協働性〕

・「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

・未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

・文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

・英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

・修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

・社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

・良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

・リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

・国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

【仏教学部】

仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を实践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができるとする駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出

すことができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者にわかりやすく発表できる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【文学部】

文学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び各学科が求める専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。

各学科が求める文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な人文学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

【文学部国文学科】

国文学科は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、「学士（国文学）」の学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、国語学・国文学・漢文学に関する基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び国語学・国文学・漢文学に関する専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。

作品や文献資料の調査と読解分析を反復練習することを通じて、膨大な情報の整理と分析の方法を学び、その能力を鍛える。国文学科が求める文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、国語学・国文学・漢文学に関する専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国語学・国文学・漢文学に関する基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

【文学部英米文学科】

英米文学科は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文学領域における基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）とともに、英米をはじめとする英語圏の文学や英語学についての専門的知識・研究方法を体系的に身につけている（英語で書かれた文学の的確な読解を通じて、広く英語圏の人々の感性のありようを理解している。また、通時的・共時的な英語の特質を実証的に解明することによって、広く英語の言語文化を体系的に把握している）。英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、国際人に求められる十分なレベルを修得している。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見し、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。英米文学、英語圏文学、英語学を学ぶ上で必要不可欠な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な人文学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

【文学部地理学科】

地理学科および地理学科に設置されている二つの専攻（地域文化研究専攻・地域環境研究専攻）は、地域の文化や環境の本質について、フィールドワークをとおして理解できる人材を育成する。この学習成果をもって、卒業後、交通・旅行業界、地図製作・測量業界、不動産関連業界、行政・教員、学術・研究などの分野において、実務の現場で活躍できる人材を輩出することを目標とする。具体的には、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位（「学士（地理学）」）を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

本学の建学の理念を理解した上で、多様な人間と自然の関係について考え、他者を尊重しつつ主体的に行動できる力を身につけていること。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

フィールドワーク、観測、測量、統計分析、GISなど、地域の文化や環境の調査に必要な文理を問わない幅広い知識と分析能力を身につけていること。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

専門知識を活かして、地域の課題を解決する実践力を修得していること。その結果を正確な文章や効果的なプレゼンテーションにより表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

修得した知識を活用しながら、他者と協働して地域調査および課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な地理学の学びを通じて、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重できる国際感覚や共生意識を身につけている。

【文学部歴史学科】

文学部歴史学科では、教育の理念にもとづいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、必要な科目を124単位以上修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（歴史学）の学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有していること。未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができること。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲があること。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

人文、社会、自然に対する文理を問わない豊かな教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）を修得し、歴史学の知識・研究方法を体系的に身につけていること。歴史についての幅広い知識や理解力を修得し、様々な現象に対する歴史的洞察力を修得していること。異文化として歴史を理解し、現代社会を客観的に理解する能力を身につけていること。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

歴史についての広範な知識や理解力、人文、社会、自然に対する豊富な教養を修得し、さらに外国語の確かな運用能力と異文化を理解する力を身につけていること。また様々な現象に対する歴史的洞察力を修得していること。そこから知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができること。歴史学科が求める文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができること。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけていること。また異文化として歴史を理解し、現代社会を客観的に理解する能力を身につけていること。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができること。広範で多様な人文学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけていること。

【文学部社会学科】

文学部社会学科は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。両専攻の方針は以下のとおりである。

社会学科社会学専攻は、幅広い領域からなる全学共通科目、社会学の専門的な講義科目、演習・実習科目の履修、卒業論文・卒業レポートの作成によって、建学の理念を実践する力、幅広い教養と専門知識、課題解決力と表現力、多様な他者を尊重し協働する力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（社会学）の学位を授与する。

社会学科社会福祉学専攻は、福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための基本的で幅広い知識と専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応できる社会人・職業人を育成することを目的とし、以上に述べた事項を達成するために必要な科目を修めた学生に対して卒業を認定し、学士（社会福祉学）を授与する。

（DP1） 建学の理念を実践する力〔主体性、多様性、協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文・社会科学領域の基礎的知識を積極的に修得し、社会における諸課題を発見する能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2） 幅広い教養と専門知識〔知識、技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び社会学や社会福祉学における専門知識や研究方法、調査にかかわる技能・技術を体系的に身につけている。

（DP3） 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、主体的に問題設定を行い（現行生かし）、社会学や社会福祉学の専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。

また、文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4） 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な人文・社会科学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

【文学部心理学科】

心理学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学科が定める124単位以上を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、心理学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び心理学科が求める専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、心理学領域の知識を生かし、かつ自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、心理学領域の知識を活用しながら他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

心理学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要なとされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

【経済学部】

経済学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。

【法学部】

法学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を、法律学および政治学それぞれの分野に即して身につけ、所定の期間在学し、各学科の定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、主体的に社会の発展に貢献することができる。

(DP2) 多様性理解と協働性〔理解、多様性、協働性〕

法学・政治学分野の専門知識はもとより、社会、人文、自然、ライフデザイン、様々な異文化に関する多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しつつ、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、また相手を思いやる態度を持ちながら他者と主体的に協働することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔知識、技能、思考力、判断力〕

現代社会における法や政治・行政に関する諸問題について、多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考し、問題発見や問題解決に解決する方策を効果的に発信することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔理解、表現力〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

法学部の学生として、法と政治を基軸に社会・経済を見る眼を養い、体系的に修得した法学・政治学分野の知識・技能・技術を活用する能力を持つとともに、倫理観と社会的責任を身につけ、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【経営学部】

経営学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

経営を中心とする情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組

むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

【医療健康科学部】

医療健康科学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部・学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

医療人としての強い責任感と豊かな人間性を有している。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識を体系的に身につけている。英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

医用放射線分野における専門知識・技術を身につけている。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

習得した医用放射線分野における専門知識・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造することができる。多様な医療情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、問題を発見し問題解決に繋がるアイデアを出し、自ら行動することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他の医療スタッフと主体的に協働することができる。他の医療スタッフや患者を尊重することができる。

【グローバル・メディア・スタディーズ学部】

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、深い人間性をもってよりよい世界の実現に貢献する意欲を有している。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能・思考力・判断力・表現力〕

当学部の学問的基礎となる諸分野（経済学、経営学、政治学、法学、国際関係論、情報学、コミュニケーション学、社会学など）の科目を幅広く履修し、教養的な基礎知識とし

<p>て身につけている。また、諸分野の中から自ら選んだ専門領域、およびその関連領域における専門知識・研究方法を修得し、これらの知識に基づきメディアとコンテンツの本質を理解することができる。</p> <p>これら諸分野の確固たる知識にくわえ、グローバル・コミュニケーション・ツールである英語を使いこなす力を備え、グローバルな環境において、レポートや論文などの文章読解・作成、およびプレゼンテーションを行い、自らの考えを論理的かつ明確に伝える能力を備えている。</p> <p>(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕</p> <p>修得した幅広い教養的知識、専門領域と関連領域の深い知識と研究方法を活用して、グローバル社会が直面する地球規模の問題解決に資するアイデアを見出し、その発想をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。</p> <p>(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕</p> <p>グローバルな環境で多文化共生社会を生きるグローバル市民として、多様な文化や価値観を理解し、他者を尊重し、国際感覚を持って協働していく能力を備えている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
収支計算書又は損益計算書	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
財産目録	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
事業報告書	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
監事による監査報告(書)	法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人駒澤大学 令和6年度事業計画書 対象年度:2024年度)
公表方法:法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
中長期計画(名称:学校法人駒澤大学第3期中期事業計画(2022-2026) 対象年度:2022年度から2026年度まで)
公表方法:法人ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/medium-term-plan.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/self-inspection.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/accreditation.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 仏教学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学部は、建学の理念である「仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神」に則って教育を行う中心的学部であり、それらを体系的に多角的視野から学び、仏教による人間教育を行う。それらをその後の多様な人生の中に自ら活かし、広く社会に発信することができる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができるとする駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT (情報通信技術) をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者にわかりやすく発表できる。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、</p>

<p>多様性、協働性]</p> <p>体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>積尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。また、教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。</p> <p>1. 教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。また、「坐禅」で、自ら坐禅を実習することによって、その意義と実践方法を身につける。 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。 3) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。 5) 専門教育科目では、仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。 6) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。 <p>2. 教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる坐禅を必修科目として実習する。 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナー、仏教学セミナーにおいては、アクティブ・ラー

ニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。それぞれの学科において、さらに専門的な自らの研究課題を持ち、必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅰを継続してより深める演習Ⅱと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。

4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。

5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。

6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
全学共通科目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題である「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社

								会人としての基礎的なレベルを身につける。	
	ICT教育	2	1			◎		ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。	
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎		○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。	
	外国語科目	1・2	1・2		◎		○	外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。	
	健康・スポーツ分野	1・2	1~4		◎		○	スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専門教育科目	導入教育科目	2~4	1				◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。	
	講義科目	2~4	1~4				◎	専門分野の知識を体系的に身につける。	
	実習科目	1~4	1~4			○	○	◎	坐禅を実習し、その意義を学び、実践方法を身につける。
	演習科目	2~4	1~4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究	4~8	4	○		○	○	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

<p>入学者の受入れに関する方針 公表方法： ①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>

<p>(概要) 仏教学部では、専門分野の体系的な知識、それらに応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につけた上で、より専門的にその分野の知識・能力を深めるため、禅学科・仏教学科に学科分けせず入学者選抜を行い、3年次進級時において、学科を選択する方式をとっている。仏教学部では、この前提において、受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。</p> <p>1. 仏教学部の求める学生像</p> <p>(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕 ・仏教や禅を学ぶ強い意欲を持っていることを基準として各種の自己推薦・特別選抜を実施する。特に、仏教や禅を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦選抜を実施する。 ・高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲がある。</p> <p>(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕 仏教学部では、広い視野に立ちながら多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身についている。</p> <p>(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕 仏教学部のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる思考力と文章力、大学生活に適應できるコミュニケーション能力を有し、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる。</p> <p>(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕 仏教学部では、世界的に関心を持たれている仏教や禅の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。</p>
--

<p>学部等名 文学部 教育研究上の目的 公表方法： ①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>

<p>(概要)</p> <p>文学部は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則って、人間に関わる人文諸学の智に基づき、人間の本質の理解および社会の諸問題の解決に取り組むことで、社会に貢献できる幅広い教養と専門性を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>その理念・目的を達成するために、6学科（国文学科・英米文学科・地理学科・歴史学科・社会学科・心理学科）を置き、さらに地理学科には2専攻（地域文化研究専攻・地域環境研究専攻）、歴史学科には3専攻（日本史学専攻・外国史学専攻・考古学専攻）、社会学科には2専攻（社会学専攻・社会福祉学専攻）を置き、「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行う。それにより、十分な基礎力・実践力を身につけ、多様な経験を踏まえ主体的に行動できる力を備え、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を行う。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕 「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。 未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。</p> <p>(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕 文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び各学科が求める専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。</p> <p>(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕 修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。 各学科が求める文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。</p> <p>(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕 良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。 リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。 広範で多様な人文学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

文学部は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、各学部・学科において、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築くとともに、専門教育科目では専門性を高める。全学共通科目と専門教育科目の履修により、学生が多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように教育課程を編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。

2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。

ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。

ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。

3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。

4) 「保健体育科目」は、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。

5) 「駒澤教養パスポート (Komazawa Liberal Arts Program)」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うことにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。

6) 専門教育科目は、各学科（専攻）における専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけるとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる問題解決力、表現力、多様な他者と協働する力などを総合的に育成することを目標とする。初年次には基礎・基本となる導入教育科目を、2年次以降には専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求しこれまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実験・実習科目を配置する。また、卒業年次には、学びの集大成として卒業論文の作成、または資格試験の受験などを行う。

2. 教育方法

1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。

2) 演習・実習科目・教養ゼミにおいては、探究型学修やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

- 3) 演習科目（ゼミ）では、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項（HP 版）

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

（概要）

文学部は、6つの学科で構成されており、学生は、これらの領域で行われる教育・研究を通して、多様な観点から、人間や社会、文化について深く学び、また、教養を広め、感性を養い、自己の考えを的確に伝える表現力を磨くことになる。文学部は、既存の概念に縛られずに研究対象と向き合い、他人との討議によって、異なる意見にも耳を傾け、自己の考えを改めて謙虚な姿勢で問い直せる知的生産力の高い人材の育成を目指す。私たちが入学を期待するのは、以下のような学生である。

- ・鋭い感性を磨き、幅広い教養を身につけたい人。
- ・人間や社会、文化に関する問題を深く探求したい人。
- ・論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を養いたい人。

文学部の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、人文学に関心があり、文学部で4年間学んだ知識・経験を社会に出てから活かしたいという意欲を持っている。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の基礎的な学力を身につけている。特に「国語」、「英語」の基礎的な学力を有している。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

社会の出来事について問題意識を持ち、変化し続ける社会状況を読み解き、その考察した問題に関して他者にわかりやすく説明し、意見交換ができる。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の文化・社会の違い、価値観の違いについて理解し、他者を尊重しつつ、主体的に協働して物事を進めることができる。

学部等名 経済学部

教育研究上の目的

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

<p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要) 経済学部は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則り、転換期を迎える世界経済の中で経済学に基づいた学びを実践し、理論的な基礎知識からビジネス・地域社会の第一線で活かせる応用力までを身につけた新しい時代の経済社会を担う人材を育成する。社会や歴史についてしっかりと考えるための知識と知力を基礎に、それらを活用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 公表方法： ①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要) 経済学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の 4 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT (情報通信技術) をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。</p> <p>(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕 レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の 4 技能 (聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと) について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法： ①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>

(概要)

経済学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけるために、以下の方策をとる。全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す、駒澤大学による「駒澤人育成基礎プログラム」を基礎としつつ、経済学部・学科の専門教育科目と密接に関連づけて接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリング（順位づけ）や履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、経済学部として教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、経済学を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、将来志望する業界や進路を念頭に置いたコース制によって専門科目の系統的な学習を促進する。さらに、各学科で将来の職業選択に関連する資格取得のためのコースを設置し、学外講師による最新のビジネス動向やコミュニティ経済を支えるさまざまな組織の動向を知るための講義を設置する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テスト（ペーパーテスト等の直接評価により学生の知識・技能・態度等を測定）の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目			◎			実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目			◎	○	○	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。

	卒業論文・卒業研究・資格試験など	○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。
--	------------------	---	--	---	---	--

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

経済学部は、これまでの学習経験や関心のある分野について知識・能力を深めていくこと、自らの将来の目標に向けて知識能力を高めていくことなど、駒澤大学に入学して何を学びたいか何をするかなどの目標や意欲を持った入学者を求めている。また、入学希望者に対しては、幅広い教養と専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとする、駒澤大学の教育の理念を理解した上で出願することが望まれる。経済学部では、こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 経済学部の求める学生像

(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、経済学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

学部等名 法学部

教育研究上の目的

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

<p>(概要)</p> <p>法学部は、建学の理念に則り、社会的実践と深く結びついた学問分野である法律学と政治学の修学を通じて、現代社会の多様性に対する感性と理解力、また社会の中で必然的に生じる法的・政治的問題に対処する情報分析力と実践的な問題解決力を養成し、そうした能力を支える幅広い教養を培う。これによって、将来の職業生活を通じて地域社会さらには国際社会に対し責任をもって貢献できる人材を育成するための「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学の教育の理念とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>法学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を、法律学および政治学それぞれの分野に即して身につけ、所定の期間在学し、各学科の定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、主体的に社会の発展に貢献することができる。</p> <p>(DP2) 多様性理解と協働性〔理解、多様性、協働性〕 法学・政治学分野の専門知識はもとより、社会、人文、自然、ライフデザイン、様々な異文化に関する多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しつつ、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、また相手を思いやる態度を持ちながら他者と主体的に協働することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔知識、技能、思考力、判断力〕 現代社会における法や政治・行政に関する諸問題について、多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考し、問題発見や問題解決に解決する方策を効果的に発信することができる。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔理解、表現力〕 レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 法学部の学生として、法と政治を基軸に社会・経済を見る眼を養い、体系的に修得した法学・政治学分野の知識・技能・技術を活用する能力を持つとともに、倫理観と社会的責任を身につけ、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

法学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために全学共通科目と法学部各学科の専門教育科目をシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系的をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示す履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。（「実用英語」では、「聞く」「話す」に重点を置いた英語教育を行う。）このほか、日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 社会、人文、自然、ライフデザイン分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 演習と講義科目を効果的に組み合わせた専門教育科目の体系的履修制度を通して、法と政治を基軸に、社会・経済を見る眼を養い、論理的思考力、分析力、問題解決力などの修得を促す。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 教養教育科目に配置されている「新入生セミナー」では、法律学科での学修につながる問題の発見・分析能力、論理的思考力、読解力、表現力等の基礎的学修能力を身につける。
- 3) 演習科目（ゼミ）においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を心がける。事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則少人数制による担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標に基づく全学的な検証を行い、教育内容や教育方法の改善に積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい
全学 共通 科目	仏教と人間	4	1	◎				仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎	高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1 ～ 2			◎		社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1 ～ 2				◎	課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎	日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎		ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2 ～ 4	1 ～ 4		◎			多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1 ～ 2	1 ～ 2		◎		○	外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1 ～ 2	1 ～ 4		◎		○	スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専門 教育 科目	導入教育科目	2 ～ 4	1					専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2 ～ 4	1 ～ 4		◎	◎		専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	4	2 ～ 4	○	◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。

<p>入学者の受入れに関する方針 公表方法： ①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要) 法学部では、法学・政治学の基本となる公民、歴史、地理などの社会科系科目に特に興味があり、それらの科目を含めた幅広い基礎学力を有するとともに、主体的に問題を発見、分析・検討することのできる能力の習得に関心がある学生を求める。本学部では、こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。</p> <p>1. 法学部の求める学生像 (AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、法学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。 (AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。 (AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕 現代の地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。 (AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、他者と主体的に協働する意欲を持つ。</p>

<p>学部等名 経営学部</p>
<p>教育研究上の目的 公表方法： ①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要) 経営学部は、環境変化に直面する企業や社会において、情報を収集・分析・統合しつつ、自ら課題を発見し、適切かつ迅速に解決できる人材を養成する。そのために、経営に関わる理論的・実践的研究の深い知識、仏教と禅による人間観とグローバルな視野による広い教養を礎に、合理的な分析とチームによる問題解決を実践できる能力を陶冶することを教育の理念とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 公表方法： ①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p>

<p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要) 経営学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕 「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。</p> <p>(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕 文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。 英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。 体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p> <p>(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕 経営を中心とする情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。 社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。</p> <p>(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕 良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。 リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。 国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法： ①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p> <p>(概要) 経営学部は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とした、文理横断的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく配置し、多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように編成する。専門教育科目では経営に関わる理論的・実践的研究に関する科目を体系的に配置し、合理的な分析能力や問題解決力を</p>

高められるように編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「文章読解・作成教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、経営に関わる諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上に企業経営を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。また、各学科には専門科目を体系的に学ぶことができるコースを設置する。加えて、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。
- 6) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。
- 7) 理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した経営に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3) 演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5) 教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
<p>入学者の受入れに関する方針 公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項（HP版） https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>							

<p>(概要)</p> <p>経営学部では、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心をもち、高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を身につけた入学者を求めている。また、駒澤大学の教育理念では、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとしている。入学希望者に対しては、この教育理念を理解した上で出願することが望まれる。本学部では、こうした理解をもった受験生から入学者を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。</p> <p>1. 経営学部の求める学生像</p> <p>(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。 ・ 入学後は建学の理念に沿い、学業を始めとした多様な活動に失敗を恐れることなく積極的にチャレンジし、粘り強く自己研鑽し続ける意欲がある。 ・ 企業経営や市場戦略、社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学部で学んだ知識や技能を生かして社会に貢献する意欲がある。 <p>(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学での学修に必要な基礎学力を有している。特に、国語、英語、地歴公民、数学、情報について基礎的な学力を身につけている。 <p>(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識、技能を活用して自ら課題を発見し、考えることができる。 ・ 基礎的な情報収集や分析の技術を身に付けており、分析・研究の成果をレポートやプレゼンテーション等により、分かりやすく他者に伝えることができる。 <p>(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標達成、問題解決のために他者と協働して行う活動において、自分の意見を主張することができる。 ・ 多様な意見や異なる価値観を生かして最良の結論を見出すため、チームを主導することができる。または、積極的にチームに貢献することができる。

<p>学部等名 医療健康科学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p> <p>(概要)</p> <p>医療健康科学部は診療放射線技師を養成する学部である。医療健康科学部の教育とは、駒澤大学の建学の理念である仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り、時代に流されることなく、その動きを正確に洞察し、自分の進むべき道を自分の力で適切に判断できる素養と、将来、医用放射線分野の専門家として不可欠な知識・技能・資格を身につけることである。</p> <p>こうした教育を実現するため、幅広い教養と医用放射線分野の専門知識・技術、さらに、それらを活用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行う。それにより、十分な基礎力・実践力を身につけ、多様な経験を踏まえ主体的に行動できる力を備え、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与すると</p>

もに豊かな人間性をそなえて医療人としての強い責任感をもち医療技術の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学部の教育の理念とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

医療健康科学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部・学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

医療人としての強い責任感と豊かな人間性を有している。

(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識を体系的に身につけている。英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

医用放射線分野における専門知識・技術を身につけている。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

習得した医用放射線分野における専門知識・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造することができる。多様な医療情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、問題を発見し問題解決に繋がるアイデアを出し、自ら行動することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他の医療スタッフと主体的に協働することができる。他の医療スタッフや患者を尊重することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

医療健康科学部は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築くとともに、専門教育科目では専門性を高める。全学共通科目と専門教育科目の履修により、学生が多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように教育課程を編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。

2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。

ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。

具体的には高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。また、専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につけるため、「基礎数学、基礎物理学、基礎化学、情報処理技術」等の基礎科目を開講する。さらに、モチベーションを上げるための、少人数・ゼミ形式で行われる「科学基礎論」を開講する。

ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。

3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。

4) 「保健体育科目」は、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。

5) 「駒澤教養パスポート (Komazawa Liberal Arts Program)」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うことにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。

6) 専門教育科目は、各学部・学科（専攻）における専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけるとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる問題解決力、表現力、多様な他者と協働する力などを総合的に育成することを目標とする。初年次には基礎・基本となる導入教育科目を、2年次以降には専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求しこれまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実験・実習科目を配置する。医療健康科学部では診療放射線技師資格取得のため、診療放射線技師学校養成所指定規則に基づいて基礎分野、専門基礎分野、専門分野の科目を専門科目として配置する。多様化する診療放射線科学分野の学問領域に対応するため、3コース制を採用し、より各コースの専門性に特化した専門科目を体系的に配置し、先進性の高い教育内容を実現する。講義、演習、実験、実習、総合研究と多様な授業形態をとおして、基礎学力、応用力、問題解決能力を備えた医療人を育成する。専門科目として「医療宗教学」、「医療経済学」、「臨床医療人間学基礎実習」「医療安全管理学」を配置し、幅広い視野

をもった医療人を育成する。また、卒業年次には、学びの集大成として総合研究および論文の作成・発表、また、診療放射線技師国家試験の受験などを行う。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 実験や演習科目では、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) e ラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	各科目群のねらい
全学 共通 科目	宗教教育科目 ・ 仏教と人間	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。
	初年次教育科目 ・ 新入生セミナー			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育科目 ・ 科学基礎論	○			◎	現代医療の状況とその論理を種々の専門分野に則して紹介しながら、少人数による体験と問題提起と討論を通して医療人としての姿勢を培う一助とする。
	外国語科目 ・ 英語 I Aa、英語 I Ab、 ・ 英語 I Ba、英語 I Bb、		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める

	保健体育科目 ・健康・スポーツ実習 ・保健理論				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
	リメディアル教育科目 ・数学序論A、数学序論B ・物理学序論A、物理学序論B ・化学序論					入学直後の学生を対象とする授業であり、高校の物理・化学・数学から大学の物理・化学・数学へスムーズに学習できるためのリメディアル科目である。今後の学習のための物理面での基礎力を高めることを目的としている
	導入教育科目 ・基礎数学A、基礎数学B ・初等物理学、基礎化学		◎		○	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
専門教育科目	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目 ・総合演習 I,II ・放射線学総合演習		◎			専門分野の知識の習得レベルを基礎分野から専門分野に至るまで段階的に確認することにより、診療放射線技師国家試験合格に必要な知識を確実に習得する。
	実験科目 ・基礎科学実験 ・診療工学実験 ・放射線治療技術学実験 ・放射線管理学実験 ・画像工学実験		◎	◎	○	実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。また、実験結果をレポートにまとめることにより、文章力を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝える能力を身につける。
	臨床医療人間学基礎実習		◎	◎	◎	医療人としての心構え、および診療放射線技師としての患者接遇法並びにそれらの留意点を中心に、これらの業務が医療施設ではどのように実施されているか、医師および他医療技術職種との連携、業務分担について学ぶ。
	基礎実習 ・核医学検査技術学基礎実習 ・画像検査技術学基礎実習		◎	◎	○	臨床実習前に、検査部位毎に体験実習を行い、実際の臨床の場で応用できる基礎能力を養う。また検査に伴う診断用撮影機器及び周辺機器の適正な使用方法を身に付け、最適な画像を得るための諸条件を工夫する能力をつける。

臨床実習 ・画像検査技術学実習 ・核医学検査技術学実習 ・放射線治療技術学実習		○	◎	◎	診療放射線技師国家試験受験資格のために必須とされる臨床実習であり、放射線設備および指導者の充実した医療機関において実施される。専門分野の講義・実験等で身につけた知識を基に、体験学習等を行う。
卒業論文・卒業研究・資格試験など ・医療放射線科学総合研究 ・医療画像科学総合研究 ・診療放射線技師国家試験	○		◎	○	4年次においてこれまでの学習成果を基に、医療分野における学生各自の興味のあるテーマについて、指導教員の助言を受けながら研究を行う。研究成果は論文に纏めると共に発表を行う。 また、国家資格を得るために診療放射線技師国家試験を受験する。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

医療健康科学部は、診療放射線技師を養成する学部である。診療放射線技師には医療人としての資質とともに、理工学的な基礎知識・学力が求められる。従って、大学では医学分野についてはもちろんのこと、放射線・放射能・画像のデジタル処理技術などさまざまな理工学的内容も学ぶ。このため、高校での数学、物理、化学の履修は極めて重要で、その基礎をしっかりと理解しておくことが必要である。この分野への強い関心、探究心をもった学生を求めている。

1. 医療健康科学部の求める学生像

(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、医療健康科学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得し、本学部での学修に必要な基礎学力（特に、数学、物理、化学）を有している。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。

<p>学部等名 グローバル・メディア・スタディーズ学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>グローバル・メディア・スタディーズ学部は、駒澤大学建学の理念である仏教の教えと禅の精神に則り、グローバル化の進む世界におけるさまざまな問題を多角的にとらえる広い視野、複雑化・高度化の進むメディアを経由して大量のコンテンツが流れるしくみを理解し使いこなす知識とスキル、および学問領域にとられない自由な発想力と果敢な実行力を持つ人材を育成する。これを実現するため、当学部は、以下に掲げる「3つのリテラシー」を基礎としたうえで、社会科学系の諸学問分野を中心に、人文科学系および情報科学系にわたる幅広い学問分野で専門教育を行う。</p>
<p>グローバル・メディア・スタディーズ学部が基礎と位置付ける「3つのリテラシー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セカイのことば：ビジネスやその他の「現場」で実用に足るレベルの英語 ・キカイのことば：デジタル社会を生き抜くために必要なコンピュータと情報のリテラシー ・シャカイのことば：巷に流通するさまざまな情報を読み解き自ら発信していけるメディアリテラシー
<p>当学部は、当学部で学ぶ学生が、知識の習得にとどまらず、学内外の実践を通じて主体的に学び、身につけた合理的な思考力と深い人間性をもって、世界の人々と力を合わせ、困難な課題に果敢に挑戦し、よりよい世界の実現に貢献していくことを目標とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <p>①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html</p> <p>②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE 受験生向け大学サイトにて閲覧可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html</p> <p>③履修要項 (HP 版) https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>
<p>(概要)</p> <p>グローバル・メディア・スタディーズ学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、深い人間性をもってよりよい世界の実現に貢献する意欲を有している。</p> <p>(DP2) 幅広い教養と専門知識〔知識・技能・思考力・判断力・表現力〕 当学部の学問的基礎となる諸分野（経済学、経営学、政治学、法学、国際関係論、情報</p>

学、コミュニケーション学、社会学など)の科目を幅広く履修し、教養的な基礎知識として身につけている。また、諸分野の中から自ら選んだ専門領域、およびその関連領域における専門知識・研究方法を修得し、これらの知識に基づきメディアとコンテンツの本質を理解することができる。

これら諸分野の確固たる知識にくわえ、グローバル・コミュニケーション・ツールである英語を使いこなす力を備え、グローバルな環境において、レポートや論文などの文章読解・作成、およびプレゼンテーションを行い、自らの考えを論理的かつ明確に伝える能力を備えている。

(DP3) 課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した幅広い教養的知識、専門領域と関連領域の深い知識と研究方法を活用して、グローバル社会が直面する地球規模の問題解決に資するアイデアを見出し、その発想をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

グローバルな環境で多文化共生社会を生きるグローバル市民として、多様な文化や価値観を理解し、他者を尊重し、国際感覚を持って協働していく能力を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項 (HP 版)

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

(概要)

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、学位授与の方針を満たす人材を育成するため、多様な専門科目の習得が可能となる柔軟な履修制度を採用し、学生の自主的判断で学習計画を作成できるようなカリキュラムを提供する。このため、「教育の理念」に掲げる「3つのリテラシー」を身につける基礎科目を設けたうえで、種々の専門領域(経済学、経営学、政治学、法学、国際関係論、情報学、コミュニケーション学、社会学など)にわたる学際的科目を配置する。学生は、これらの中から自ら中核となる分野を選んで深く学ぶとともに、関連する諸分野の科目を履修し、自らの幅を広げていくことが期待される。さらに、これらの科目を基礎として、実践的な就業力を育成するための科目も提供する。

1. 教育内容

1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識と深い人間性を身につけることを目標とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。

2) 初年次教育として、専門教育の基礎となる、グローバル化とデジタル化が進む現代社会で活躍するための必須能力(英語、情報、メディアのリテラシー教育)を必修科目として設定する。実用に足るレベルの英語力を修得させるため、外国人教員を中心とした少人数制の英語教育を行う。

3) 経済学、経営学、政治学、法学、国際関係論、情報学、コミュニケーション学、社会学など多岐にわたる専門科目群を設ける。それぞれの領域に関連する科目を系統的に選択必修科目として提供し、学際的な学びの基本とする。

4) 専門分野をより深く学習できる機会を与えるために、演習科目(ゼミ)を2年次から設定する。

5) グローバルな現場の第一線で活躍する専門家を講師に招く講義を実施し、学びを実践に活かす術を修得できる機会を提供する。

6) キャリアデザインの専門家を招き、卒業後のキャリアを自ら主体的にデザインしていくための科目を提供する。

7) 海外留学先で取得した単位を卒業単位として認定するだけでなく、海外企業でのインターンシップ、海外でのボランティア活動等に関しても、審査に合格したものは卒業単位として認定する（海外演習実践講座）。また、海外研修の準備学習と帰国後の振り返り学習についても、専門教育科目（Study Abroad）を通じて卒業必要単位として認定する。

8) 国内外のさまざまな教育機関等と連携し、学内にとどまらない学修の場を設け、多様な学びを可能にする。

2. 教育方法

1) 当学部の特色である多様な専門科目を柔軟に組み合わせて履修できるようにするとともに、留学などの機会を十分に活用することができるよう、セメスター制を採用する。

2) 長期・短期の留学、海外インターンシップなどの海外経験を可能とするために、幅広い専門分野の科目は、2年次以降柔軟に履修できるように設定する。

3) 学生が早い段階で自らのコアとなる専門分野を見つけ、必要な科目を適切かつ系統的に履修していくことができるようにするため、学生の興味関心、および想定される将来の進路を念頭に置いたコース・プログラム制を導入する。

4) 大学の外部との連携により産業界の今を知り、学生の就業力を高め、さらにはグローバル化の進む社会における経済成長の一端を担うリーダーを育成するため、最新のメディア、コンテンツ、IT、文化産業などを含むさまざまな実務の現場から第一線で活躍する専門家をゲスト講師として招き、専任教員との共同作業による授業を実施する。

5) 意欲と能力を備えた学生にさらなる学びの機会への道を開くため、一定の条件の下で、3年間の在学で卒業し、本学大学院グローバル・メディア研究科（修士課程）に進学できる早期卒業制度を設ける。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい
全学 共通 科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。
	初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	保健体育科目				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。

専門教育科目	必修科目	○	◎	○	○	実用に足るレベルの英語力、実践的な ICT 能力、メディアとコンテンツを理解するための基本的教養を身につける。
	選択必修科目		◎	○	○	一定の選択肢の中から専門知識を系統的に選んで身につける。
	専門科目		○	◎	○	より深い専門知識を身につける。
	専門科目（ゼミ、卒業研究）	○	○	◎	○	少人数のゼミ形式により、研究および卒業論文の指導を行う。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

①駒澤大学ホームページ

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>

②駒澤大学大学案内 2025 SCOPE

受験生向け大学サイトにて閲覧可能

<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>

③履修要項（HP 版）

<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html>

（概要）

グローバル・メディア・スタディーズ学部では、メディアと英語を駆使したコミュニケーション能力、世界を見渡す広い視野、情報技術に関する適切なスキルと理解、社会を流れる情報の本質を見極める力をもって、自らの力をよりよい世界の実現のために発揮できる人材を育成することをめざしている。したがって当学部は、グローバル化の進む世界のさまざまな問題や身近な社会の課題に対し幅広い関心を持ち、自らの力を高め、社会を支える中核を担わんとする学生を求めている。このような学生を、高等学校の基礎的な学力、幅広く社会から自らの意思で学ぶ意欲、深く考え適切にコミュニケーションできる能力といった諸方面から、多面的かつ総合的な視点で選抜する。

1. グローバル・メディア・スタディーズ学部の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

世界のさまざまな問題や身近な社会の課題に対し幅広い視点から関心を持ち、自ら選んだ領域において、大学で深く学び、身につけた力をその改善のために用いようとする意欲を有すること。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の教育課程を幅広く修得していること。特に「英語」および「情報」について、大学での学修に必要な知識、理解、技能を有すること。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

合理性をもってものごとを考え、人間性への深い理解をもって判断し、状況と目的に応じてそれらを適切に伝えることができる力を有すること。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

世界のさまざまな地域において、また身近な社会の中において、自分とは異なる多様な人々が存在することを理解し、彼らとともによりよい世界を実現するために協働していく能力を有すること

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：駒澤大学ホームページ>修学上の情報等>教員組織 https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
仏教学部	－	14人	4人	6人	0人	0人	24人
文学部	－	54人	19人	1人	0人	3人	77人
経済学部	－	33人	12人	2人	0人	0人	47人
法学部	－	23人	10人	3人	0人	0人	36人
経営学部	－	27人	5人	1人	0人	0人	33人
医療健康科学部	－	10人	5人	2人	0人	0人	17人
グローバル・メディア・ スタディーズ学部	－	13人	2人	4人	0人	1人	20人
総合教育研究部 (教養部)	－	40人	16人	9人	1人	0人	66人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		791人					791人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法:駒澤大学ホームページ>修学上の情報等>各教員が有する業績(研究者情報データベース) https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>2023年度は、「ポストコロナにおける授業理解を促進するためのICT活用方法の共有・検討」を重点検討課題とし、FD推進委員会、学部FD分科会、においてFD憲章に基づく活動を行った。</p> <p>具体的には「新規採用教員オリエンテーション」、オンラインやLMSを用いた「FD研修会」「公開授業」「学生による授業アンケート」「入学前教育」等が挙げられる。</p> <p>FD研修会について、全教職員を対象に「大学教育の現場で生成系AIとどう向き合うか」「令和5年度『学生が選ぶベスト・ティーチング賞』受賞者による実践事例紹介」をテーマとして、教育現場における生成系AIの活用方法および効果的な授業方法の実践事例の共有を図る2回の研修会（オンライン）を行った。また、各学部でFD研修会を実施し、何かしらの形でFD研修会へ参加した教員は約93%となった。</p> <p>加えて、学生FDスタッフとして構成された組織による「学生によるベスト・ティーチング賞」や受賞者による実践事例紹介（FD研修会）、学長との意見交換会（対面）なども行った。</p> <p>2024年度は、効果的な取り組みを継承しつつ、授業改善に関する情報共有方法ならびに学修・授業支援方法についてより抜本的な改善を組織的に実施していく。</p>							

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	198人	212人	107.1%	792人	819人	103.4%	若干名	4人
文学部	851人	847人	99.5%	3,404人	3,611人	106.1%	若干名	7人
経済学部	766人	797人	104.0%	3,064人	3,208人	104.7%	若干名	18人
法学部	675人	729人	108.0%	2,700人	2,895人	107.2%	若干名	1人
経営学部	535人	547人	102.2%	2,140人	2,269人	106.0%	若干名	0人
医療健康科学部	64人	64人	100.0%	256人	263人	102.7%	若干名	2人
グローバル・メディア・ スタディーズ学部	307人	315人	102.6%	1,228人	1,307人	106.4%	若干名	8人
合計	3396人	3511人	103.4%	13,584人	14,372人	105.8%	若干名	40人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・ 修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
仏教学部	178人 (100%)	6人 (3.4%)	156人 (87.6%)	16人 (9.0%)
文学部	770人 (100%)	28人 (3.6%)	672人 (87.3%)	70人 (9.1%)
経済学部	736人 (100%)	11人 (1.5%)	655人 (89.0%)	70人 (9.5%)
法学部	606人 (100%)	9人 (1.5%)	529人 (87.3%)	68人 (11.2%)
経営学部	489人 (100%)	4人 (0.8%)	448人 (91.6%)	37人 (7.6%)
医療健康科学部	50人 (100%)	12人 (24.0%)	30人 (60.0%)	8人 (16.0%)
グローバル・メディア・ スタディーズ学部	300人 (100%)	5人 (1.7%)	257人 (85.7%)	38人 (12.7%)
合計	3129人 (100%)	75人 (2.4%)	2747人 (87.8%)	307人 (9.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
株式会社雪国まいたけ、清水建設株式会社、新日本空調株式会社、古谷乳業株式会社、わらべや日洋食品株式会社、味の素株式会社、山崎製パン株式会社、サッポロビール株式会社、株式会社ワコール、株式会社イトーキ、株式会社扶桑社、株式会社日本経済新聞社、TOPPANホールディングス株式会社、共同印刷株式会社、ライオン株式会社、株式会社ミルボン、花王株式会社、エスケー化研株式会社、ENEOS株式会社、太平洋セメント株式会社、TOTO株式会社、JFEスチール株式会社、YKK AP株式会社、リンナイ株式会社、株式会社日本製鋼所、株式会社リコー、アイリスオーヤマ株式会社、株式会社キーエンス、NEC、ホーチキ株式会社、ぺんてる株式会社、東京メトロ、JR東日本、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社、清和海運株式会社、株式会社良品計画、三菱食品株式会社、ユニ・チャーム株式会社、株式会社ワークマン、株式会社ファーストリテイリング、三菱UFJ信託銀行株式会社、大和証券株式会社、みずほ証券株式会社、第一生命保険株式会社、日本生命保険相互会社、東京海上日動火災保険株式会社、楽天カード株式会社、丸紅ITソリューションズ株式会社、KDDI株式会社、株式会社ア				

イビーシー岩手放送、NHK、株式会社テレビユー福島、株式会社TYO、株式会社朝日広告社、株式会社リクルート、株式会社サイバーエージェント、株式会社JT B、株式会社パレスホテル、日本郵便株式会社、アクセンチュア株式会社、株式会社LDH JAPAN、株式会社アミューズ、松竹芸能株式会社、国土交通省、経済産業省、厚生労働省、皇宮警察本部、特許庁、財務省関東財務局、東京都庁、埼玉県庁、神奈川県庁、千葉県庁、愛知県庁、福岡県庁、世田谷区役所、渋谷区役所、横浜市役所、東京消防庁、東京都教育委員会 (備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
仏教学部	197人 (100%)	160人 (81.2%)	21人 (10.7%)	16人 (8.1%)	0人 (0.0%)
文学部	827人 (100%)	714人 (86.3%)	71人 (8.6%)	41人 (5.0%)	1人 (0.1%)
経済学部	741人 (100%)	643人 (86.8%)	66人 (8.9%)	31人 (4.2%)	1人 (0.1%)
法学部	649人 (100%)	528人 (81.4%)	84人 (12.9%)	36人 (5.5%)	1人 (0.2%)
経営学部	530人 (100%)	432人 (81.5%)	74人 (14.0%)	24人 (4.5%)	0人 (0.0%)
医療健康科学部	58人 (100%)	43人 (74.1%)	10人 (17.2%)	5人 (8.6%)	0人 (0.0%)
GMS学部	304人 (100%)	231人 (76.0%)	55人 (18.1%)	18人 (5.9%)	0人 (0.0%)
合計	3,306人 (100%)	2,751人 (83.2%)	381人 (11.5%)	171人 (5.2%)	3人 (0.1%)

(備考) <ul style="list-style-type: none"> ・対象者＝2020年入学者（編入学・再入学を除く） ・中途退学者には、退学のほか除籍・死亡を含む ・中途退学者は事務処理日（2020年4月1日～2024年3月31日）で回答 ・4年次に9月始期で1年間の留学をしている者は、卒業判定にはかからず留年扱いにならないため「その他」に計上 ・経済学部の入学取消1名は計上していない ・転部科者13名については、転部科元学部の入学者数を減らして計上、転部科先学部の入学者を増やして計上した。内訳は次のとおり。 仏教学部：3名減 文学部：2名減、2名増 法学部：7名減、10名増 医療健康科学部：1名減 GMS学部：1名増
--

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 全ての授業科目について、前年度の11月に各教員に対し、「シラバス作成ガイドブック」に基づいたシラバス作成を依頼。シラバスには、授業概要・到達目標（ねらい）・授業スケジュール・準備学習・成績評価の方法などの項目が含まれている。 作成されたシラバスは各学部学科主任等または各研究科の専攻主任による第三者チェ
--

ックを経た上で、毎年年度開始直前の3月末に本学ホームページで公開され、学生ポータルサイトでも履修登録開始まで閲覧可能となる。

次年度シラバス作成時に、全教員宛に配付する「シラバス作成ガイドブック」にて、成績評価方法（項目と割合）を具体的に記述するよう指示している（全ての科目について入力必須）。成績評価方法は、「試験・レポート・小テスト・平常点」に加えて他に4項目まで追加でき、必要な評価項目にのみ割合を入力して合計を100%とする。その配分に則り教員は授業を実施し、成績評価を行う。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

成績評価におけるGPA等の客観的な指標は、履修要項・大学HP・学生ポータルサイト等に掲載している。

- 成績は、各科目を「S A B C F 空欄 T」によって評価され、予め定められたGPAの値によって算出される。
- GPA算出式については、以下の通り設定している。

$$\frac{S \text{ 修得単位数} \times 4.0 + A \text{ 修得単位数} \times 3.0 + B \text{ 修得単位数} \times 2.0 + C \text{ 修得単位数} \times 1.0}{\text{履修した科目の総単位数 (F・評価のない科目を含むが評価 T (認定は含まない)}}$$

成績の分布について、厳正化を図るため、ガイドラインにて、Sが5%、Aが30%程度と目標値を設定しており、成績評価登録時に科目担当教員へ分布を開示している。また、学部単位の成績分布については、教務委員会にて報告されている。

卒業の認定にあたっては、事務局にて作成した判定資料を元に、3月各学部教授会において、ディプロマポリシーに鑑みて成績ならびに卒業の判定を行っている。

成績評価におけるGPA等の客観的な指標は、履修要項・大学HP・学生ポータルサイト等に掲載し公表している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
仏教	禅学科	124	有	49
	仏教学科	124	有	49
文	国文学科	124	有	48
	英米文学科	124	有	48
	地理学科	124	有	49
	歴史学科	124	有	48
	社会学科社会学専攻	124	有	45
	社会学科社会福祉学専攻	124	有	49
	心理学科	124	有	49
経済	経済学科	124	有	49
	商学科	124	有	49
	現代応用経済学科	124	有	49
法	法律学科フレックスA	124	有	48
	法律学科フレックスB	124	有	48
	政治学科	128	有	49
経営	経営学科	124	有	44
	市場戦略学科	124	有	44

医療健康 科学部	診療放射線技術科学科	138	有	56
グローバル・ メディア・ スタディーズ	グローバル・メディア学科	132	有	49
G P A の活用状況（任意記載事項）		<p>修学指導の基準、進級の基準としてG P Aを活用している。 また、GPA 値の高い学生に対し、年間履修制限単位数に一定の単位を以下のとおり加算している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の単年 GPA が 3.0 以上～3.5 未満の場合、上限に 4 単位加算 ・前年度の単年 GPA が 3.5 以上の場合、上限に 8 単位加算 <p>公表方法：大学ホームページ 駒澤大学進級規程 https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/files/shinkyukitei2022.pdf 駒澤大学医療健康科学部進級規定 https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/files/iryoushinkyukitei.pdf 履修要項（HP 版） https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/registration/guidebook-schedule.html</p>		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		<p>公表方法： 駒澤大学ホームページ>修学上の情報等 学修時間・学修実態 授業評価結果 学修成果 https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html</p>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/ 法人ホームページ（事業報告） https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

◆2024（令和6）年度以降入学者

学部名	学科名	専攻名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
仏教			759,000 円	200,000 円	341,000 円	<p>その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円（※1～2） ※1. ③の費用については、休学をしない学生・在籍料の減額が適用されない休学者からは徴収しない。 ※2. 休学する者は在籍料として、前期分学費（年額の2分の1に分割した額）を納入しなければならない。ただ</p>
文	国文		759,000 円	200,000 円	341,000 円	

英米文		759,000円	200,000円	341,000円	し、所定の手続を行った場合は、在籍料を減額し、100,000円とする。9月20日を超えて休学手続を行った場合は、後期分学費を納入しなければならない。
地理	地域文化	759,000円	200,000円	356,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 15,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	地域環境	759,000円	200,000円	356,000円	
歴史	日本史学	759,000円	200,000円	365,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③オリエンテーション費 24,000円※入学時のみ ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	外国史学	759,000円	200,000円	365,000円	
	考古学	759,000円	200,000円	380,000円	
社会	社会学	759,000円	200,000円	351,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 10,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	社会福祉学	759,000円	200,000円	341,000円	
心理		759,000円	200,000円	371,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 30,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
経済	経済	759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	商	759,000円	200,000円	341,000円	
	現代応用経済	759,000円	200,000円	341,000円	
法	法律 フレックスA	759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 114,000円 ②教育充実費 13,500円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	法律 フレックスB	490,000円	130,000円	227,500円	
	政治	759,000円	200,000円	341,000円	
経営	経営	759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	市場戦略	759,000円	200,000円	341,000円	

医療健康科	診療放射線技術科		800,000円	200,000円	832,500円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 385,500円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習費 320,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア		790,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照

◆ 2022（令和4）～2023（令和5）年度入学者

学部名	学科名	専攻名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）	
仏教			759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円(※1～2) ※1. ③の費用については、休学をしない学生・在籍料の減額が適用されない休学者からは徴収しない。	
文	国文		759,000円	200,000円	341,000円	※2. 休学する者は在籍料として、前期分学費(年額の2分の1に分割した額)を納入しなければならない。ただし、所定の手続を行った場合は、在籍料を減額し、100,000円とする。9月20日を超えて休学手続を行った場合は、後期分学費を納入しなければならない。	
	地理	地域文化	759,000円	200,000円	356,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 15,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照	
		地域環境	759,000円	200,000円	356,000円		
	歴史	日本史学		759,000円	200,000円	365,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③オリエンテーション費 24,000円 ※入学時のみ ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
		外国史学		759,000円	200,000円	365,000円	
		考古学		759,000円	200,000円	380,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 15,000円 ④オリエンテーション費 24,000円 ※入学時のみ ⑤通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	社会	社会学		759,000円	200,000円	375,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 10,000円 ④オリエンテーション費 24,000円 ※入学時のみ ⑤通年休学減額対象者の在籍料

						料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～2 参照
		社会福祉学	759,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～2 参照
		心理	759,000 円	200,000 円	371,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③実験実習料 30,000 円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～2 参照
経済	経済		759,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～2 参照
	商		759,000 円	200,000 円	341,000 円	
	現代応用経済		759,000 円	200,000 円	341,000 円	
法	法律 フレックスA		759,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 114,000 円 ②教育充実費 13,500 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～2 参照
	法律 フレックスB		490,000 円	130,000 円	227,500 円	
	政治		759,000 円	200,000 円	341,000 円	
経営	経営		759,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～2 参照
	市場戦略		759,000 円	200,000 円	341,000 円	
医療健康科	診療放射線技術科		800,000 円	200,000 円	832,500 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 385,500 円 ②教育充実費 27,000 円 ③実験実習費 320,000 円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～2 参照
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア		790,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円 ⇒仏教学部備考③※1～2 参照

◆ 2020（令和2）～2021（令和3）年度入学者

学部名	学科名	専攻名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
仏教			759,000 円	200,000 円	341,000 円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000 円 ②教育充実費 27,000 円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000 円(※1～2) ※1. ③の費用については、休学をしない学生・在籍料の減額が適用されない休学者からは徴収しない。
文	国文		759,000 円	200,000 円	341,000 円	※2. 休学する者は在籍料として、前期分学費(年額の2分の1に分割した額)を納入しなければならない。ただ

英米文		759,000円	200,000円	341,000円	し、所定の手続を行った場合は、在籍料を減額し、100,000円とする。9月20日を超えて休学手続を行った場合は、後期分学費を納入しなければならない。
地理	地域文化	759,000円	200,000円	356,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 15,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	地域環境	759,000円	200,000円	356,000円	
歴史	日本史学	759,000円	200,000円	365,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③オリエンテーション費 24,000円 ※入学時のみ ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	外国史学	759,000円	200,000円	365,000円	
	考古学	759,000円	200,000円	380,000円	
社会	社会学	759,000円	200,000円	375,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 10,000円 ④オリエンテーション費 24,000円 ※入学時のみ ⑤通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	社会福祉学	759,000円	200,000円	341,000円	
心理		759,000円	200,000円	371,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 30,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
経済	経済	759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	商	759,000円	200,000円	341,000円	
	現代応用経済	759,000円	200,000円	341,000円	
法	法律 フレックスA	759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 114,000円 ②教育充実費 13,500円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円 ⇒仏教学部備考③※1～2参照
	法律 フレックスB	490,000円	130,000円	227,500円	
	政治	759,000円	200,000円	341,000円	
経営	経営	759,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金 214,000円 ②教育充実費 27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料 100,000円

	市場戦略		759,000円	200,000円	341,000円	料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1~2参照
医療健康科	診療放射線技術科		800,000円	200,000円	812,500円	その他に含まれるもの ①施設設備資金385,500円 ②教育充実費27,000円 ③実験実習費300,000円 ④通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1~2参照
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア		790,000円	200,000円	341,000円	その他に含まれるもの ①施設設備資金214,000円 ②教育充実費27,000円 ③通年休学減額対象者の在籍料100,000円 ⇒仏教学部備考③※1~2参照

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>本学で実施している学生の修学に係る主な支援に関する取り組みは、以下のとおりである。</p> <p>①すべての専任教員が学生の相談や質問を個別に受けるオフィスアワーを設けている。</p> <p>②学生相談室にアドバイザー（専任教員）を配置し、「学業に関する相談」を行っている。</p> <p>③新入生に対する支援として、新入生オリエンテーションでは教員による学部学科の内容紹介をしている。また、初年次教育（1年次）では、全学部学科で「新入生セミナー」を開講し、少人数教育で「自立的」かつ「主体的」な学習態度を身につける授業を行っている。</p> <p>④修得単位数の少ない成績不振者等、一定条件に該当する学生に対しては、学部で教員面談実施、保証人へ単位修得状況を郵送するなど、修学意欲の向上を促す取り組みを行っている。特に、新入生に対しては、一部の必修科目で出席状況を調査し、出席状況が思わしくない場合には、出席を促す通知の発送や教務部職員との面談を実施するなどして対応している。また、授業支援システム WebClass の出席管理機能により、学生の出席状況を把握している。</p> <p>⑤図書館に「図書館学修支援員」を配置している。学修支援員は、レポート・論文作成、プレゼンテーション方法、図書館資料の効果的な利用法などをアドバイスし、授業や研究における学修活動の発展をサポートしている。</p> <p>⑥障がいのある学生には、「障がい学生支援委員会」のもと、学生支援センター学生支援相談課に専門知識を持つ支援コーディネーターを配置し、修学上の支援を実施している。</p> <p>⑦授業支援として、Webポータルサイト「KONECO」による履修登録のほか、休講授業・補講情報・教場変更情報・試験情報・掲示連絡などの情報提供を行っている。また、履修・成績・授業等に関する問い合わせ窓口として「教務部への疑問解決bot」また、LINE公式アカウントを開設し、支援を充実させている。</p> <p>⑧ティーチング・アシスタントの制度を設け、本学大学院に在学する大学院生が教育の補助業務（実験・実習、演習等の補助、履修学生の学修相談及び指導）を行っている。また、「スチューデント・アシスタント取扱基準」を設け、外国語科目やパソコン等の実習科目、医療関係の実験・実習科目などにおいて、主に上級年次の学部学生が授業補助を行い、教育の充実を図っている。さらに、学修支援員（ラーニング・サポーター）制度を設け、本学大学院に在学する大学院生等が、学部生に対して学生の学修における相談等の自立支援業務を行っている。</p> <p>⑨経済的に困難でも大学で学ぶ意欲のある学生を支援するため、経済支援を目的とした給付型奨学金を設けている。また、優秀な成績の学生に対する学業奨励を目的とした給付型奨学金も設けている。これ以外にも、主たる家計支持者の死亡等による家計急変時の支援、大規模自然災害被災学生への授業料減免など、学生が学業に専念できるよう、奨学金制度の充実に努めている。</p> <p>⑩留学相談室を設置し、学生の留学相談、語学学習のアドバイス等様々な相談ができる体制</p>

を整えている。留学制度としては、短期語学セミナーや交換留学・認定校留学制度があり、交換留学や認定校留学制度では留学中の駒澤大学の授業料が減免される。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

日々個別相談を行っている他、キャリアセンター主催で様々な講座を実施しています。まず、キャリア形成を促すため低学年向けにキャリアデザイン講座を行っています。また、学生の自己理解と自己形成を踏まえた就職支援体制を整えています。3年生向けには就職活動への意識涵養、自己分析と業界研究や企業研究を進める支援として就職ガイダンス、就活集中セミナー、業界研究講座を行っています。就職活動が本格化する4年生向けには学内合同企業説明会を行い、企業との接点作りといった機会創出を図っています。

加えて、業界別就職試験対策講座、公務員試験対策プログラム、教員採用試験対策プログラムを用意し、各分野に特化した支援も行っています。

講座だけでなく、仕事に対する考え方や職業観を醸成するインターンシップの機会も作っており、低学年向けには Internship & Creationship Study、東商リレーションプログラム、世田谷区学生交流プログラム、3年生向けには企業と提携し本学学生の受入枠を設けたインターンシップを行い、学生の進路選択の幅を広げています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健管理センターに内科・精神科の専門医を配置し、体調不良・怪我等の応急処置、心身に関する相談、地域の医療機関への紹介を行っている。また、定期健康診断とその結果に基づく保健指導を行い、疾病の早期発見と予防を図るとともに、感染症対策のための情報発信や健康教育に係る講習会開催を通じ、学生の意識向上に努めている。

学生相談室カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）による「心理相談」、法律相談員（弁護士）による「法律相談」、その他様々な問題に対して相談・助言を行う「よろず相談」等、個別にあるいは学部及び関連部署と連携を取りながら学生の相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

駒澤大学ホームページ>情報公開

<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

駒澤教養パスポートについて

「駒澤教養パスポート」(Komazawa Liberal Arts Program) の概要

全学共通科目（宗教教育科目、教養教育科目、外国語科目、保健体育科目）を6つの分野区分に再構成し、各分野には幅広い科目を配置した「文理融合」型のプログラムです。「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」と新たに分類しました。「教養ゼミ」では、学部学科のゼミとは別に教養としてのゼミも学ぶことが出来ます。様々な分野の科目の学びを通して、考える引き出しを増やし、学生生活の充実に役立ててください。

プログラム修了に必要な各分野と特徴

プログラムの各分野	分野の特徴	プログラム修了に必要な単位数
①「仏教」の教えと「禅」の精神に基づく初年次教育 (建学の理念)	「仏教」の教えと「禅」の精神に基づく教育科目です。本学は、禅宗の一派である曹洞宗が設置した大学であるため、本学に入学した学生全員が「仏教と人間」を学びます。仏教および禅の基本的な歴史や教義について概説するとともに、仏教が広がった地域社会の生活や文化に与えた影響などについても学びます。また、これらの視点から、人間が生きていくうえで直面するさまざまな問題についても考えることが出来ます。	4
②世界のコトバに出逢う (複数言語教育、外国語教育)	世界の主要言語を学ぶことが出来ます。外国の文化や文学を学ぶ科目も用意されており、世界の様々な言葉に触れて新たな魅力を発見しましょう！	6
③数理・自然科学のセンスを磨く (数理教育、自然科学教育、情報教育)	データサイエンス・AIの基本的知識を身に付けてもらうための科目だけでなく、数学関連科目も用意しています。さらに社会でのニーズが高まっている統計分析も学ぶことができます。今は「文理融合」型人材が社会で求められていますので、本学では理系科目も入学後に様々履修できるよう多数の科目を用意しています。	2
④様々な文化への理解を深める (多文化理解教育)	最も身近な駒澤大学の歴史に始まり、日本や世界の歴史、日本の文化や倫理観、世界の宗教や文化を学ぶことが出来ます。ダイバーシティ（多様性）の時代だからこそ、様々な文化や考え方に触れ多文化理解を深めましょう！	2
⑤日本語表現を磨く (日本語リテラシー教育)	大学生として求められる文書作成能力を養うと共に、自分の考えを的確に表現する（他者に伝える）力を身に付けてもらいます。自己理解・他者理解を実践し、社会生活を送るうえで必要な考え方の再認識を行い、コミュニケーションスキルの向上や日本語の文章表現方法を学びましょう！	
⑥教養ゼミ	少人数クラスで議論や発表を行う科目です。コミュニケーション能力のさらなる向上や様々な考え方に触れることで、社会で役に立つ能力が身につきます。所属する学部学科のゼミとは一味違った教養教育のゼミで新たな課題発見力・課題解決力を身につけましょう！	

プログラムの修了要件

- ①「「仏教」の教えと「禅」の精神に基づく初年次教育」から4単位、②「世界のコトバに出逢う」から6単位、
 - ③「数理・自然科学のセンスを磨く」から2単位、④「様々な文化への理解を深める」⑤「日本語表現を磨く」
 - ⑥「教養ゼミ」から2単位、必要な単位を修得してください。
- 「駒澤教養パスポート」プログラムを修了すると、修了証とオープンバッジが授与されます。

履修科目登録

コースの取得条件を確認し、必要な科目の登録をしてください。
既修得科目も含みコース認定科目として取り扱います。必要な科目は計画的に修得してください。
前期は履修訂正・抽選結果確認期間、後期は後期履修登録・訂正期間終了後の科目追加登録はできませんので、必要な科目が不足しないよう注意してください。

コース登録

登録期間に、KONECOの登録画面より登録してください。
詳細な日程はKONECOにてお知らせします。

駒澤教養パスポートについて

駒澤教養パスポート (Komazawa Liberal Arts Program) の開設科目一覧

修了に必要な 単位数	分野	配置科目	単位	開 講 期	配当年次				備考
					1	2	3	4	
↑ 4 単位 ↓	①「仏教」の教えと「禅」の精神に 基づく初年次教育 (建学の理念)	仏教と人間	4	通年	1	2	3	4	
		英語 I A a / I A b	各1	半期	1				
↑ 6 単位 ↓	②世界のコトバに出逢う (複数言語教育、外国語教育)	英語 I B a / I B b	各1	半期	1				
		ドイツ語 I A a / I A b	各1	半期	1				
		ドイツ語 I B a / I B b	各1	半期	1				
		フランス語 I A a / I A b	各1	半期	1				
		フランス語 I B a / I B b	各1	半期	1				
		中国語 I A a / I A b	各1	半期	1				
		中国語 I B a / I B b	各1	半期	1				
		スペイン語 I A a / I A b	各1	半期	1				
		スペイン語 I B a / I B b	各1	半期	1				
		ロシア語 I A a / I A b	各1	半期	1				
		ロシア語 I B a / I B b	各1	半期	1				
		朝鮮語 I A a (選) / I A b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		朝鮮語 I B a (選) / I B b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		ドイツ語 I A a (選) / I A b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		ドイツ語 I B a (選) / I B b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		フランス語 I A a (選) / I A b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		フランス語 I B a (選) / I B b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		中国語 I A a (選) / I A b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		中国語 I B a (選) / I B b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		スペイン語 I A a (選) / I A b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		スペイン語 I B a (選) / I B b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		ロシア語 I A a (選) / I A b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		ロシア語 I B a (選) / I B b (選)	各1	半期	1	2	3	4	
		外国文化 (1)	2	半期	1	2	3	4	
		外国文化 (2)	2	半期	1	2	3	4	
		外国文化 (3)	2	半期	1	2	3	4	
		外国文化 (4)	2	半期	1	2	3	4	
		外国文化 (5)	2	半期	1	2	3	4	
		外国文学を学ぶ (1)	2	半期	1	2	3	4	
		外国文学を学ぶ (2)	2	半期	1	2	3	4	
		外国文学を学ぶ (3)	2	半期	1	2	3	4	
		外国文学を学ぶ (4)	2	半期	1	2	3	4	
外国文学を学ぶ (5)	2	半期	1	2	3	4			
外国文学を学ぶ (6)	2	半期	1	2	3	4			
外国文学を学ぶ (7)	2	半期	1	2	3	4			
↑ 2 単位 ↓	③数理・自然科学のセンスを磨く (数理教育、自然科学教育、情報教育)	データサイエンス・A I 入門	2	半期	1	2	3	4	
		I C Tリテラシー	2	半期	1	2	3	4	
		プログラミング初級	2	半期	1	2	3	4	
		プログラミング入門	2	半期	1	2	3	4	
		自然科学へのいざない	2	半期	1	2	3	4	
		生物学の基礎	2	半期	1	2	3	4	
		化学の基礎	2	半期	1	2	3	4	
		物理の基礎	2	半期	1	2	3	4	
		確率・統計学入門	2	半期	1	2	3	4	
		確率・統計学発展	2	半期	1	2	3	4	
		数学の基礎	2	半期	1	2	3	4	

駒澤教養パスポートについて

修了に必要な 単位数	分野	配置科目	単 位	開 講 期	配当年次				備考
					1	2	3	4	
2 単 位	③数理・自然科学のセンスを磨く (数理教育、自然科学教育、情報教育)	線型代数学入門	2	半期	1	2	3	4	
		線型代数学発展	2	半期	1	2	3	4	
		微積分学入門	2	半期	1	2	3	4	
		微積分学発展	2	半期	1	2	3	4	
		統計学の基礎	2	半期	1	2	3	4	
		統計的分析を考える	2	半期	1	2	3	4	
2 単 位	④様々な文化への理解を深める (多文化理解教育)	人間と教育	2	半期	1	2	3	4	
		現代教育を考える	2	半期	1	2	3	4	
		日本文化の基礎	2	半期	1	2	3	4	
		スポーツ科学で学ぶ教養(文化)	2	半期	1	2	3	4	
		スポーツ科学で学ぶ教養(自然)	2	半期	1	2	3	4	
		スポーツ科学で学ぶ教養(健康)	2	半期	1	2	3	4	
		スポーツ科学で学ぶ教養(余暇)	2	半期	1	2	3	4	
		スポーツ科学で学ぶ教養(歴史と社会Ⅰ)	2	半期	1	2	3	4	
		スポーツ科学で学ぶ教養(歴史と社会Ⅱ)	2	半期	1	2	3	4	
		世界の宗教(1)	2	半期	1	2	3	4	
		世界の宗教(2)	2	半期	1	2	3	4	
		民族と文化(1)	2	半期	1	2	3	4	
		民族と文化(2)	2	半期	1	2	3	4	
		倫理学(1)	2	半期	1	2	3	4	
		倫理学(2)	2	半期	1	2	3	4	
		倫理学(3)	2	半期	1	2	3	4	
		倫理学(4)	2	半期	1	2	3	4	
		倫理学(5)	2	半期	1	2	3	4	
		倫理学(6)	2	半期	1	2	3	4	
		倫理学(7)	2	半期	1	2	3	4	
		倫理学(8)	2	半期	1	2	3	4	
				駒澤大学の歴史	2	半期	1	2	3
2 単 位	⑤日本語表現を磨く (日本語リテラシー教育)	日本語リテラシー(1)	2	半期	1	2			
		日本語リテラシー(2)	2	半期	1	2			
		日本語リテラシー(3)	2	半期	1	2			
		日本語リテラシー(4)	2	半期	1	2			
		日本語リテラシー(5)	2	半期	1	2			
		日本語リテラシー(6)	2	半期	1	2			
		日本語リテラシー(7)	2	半期	1	2			
		日本語リテラシー特講(1)	2	半期	1	2	3	4	
		日本語リテラシー特講(2)	2	半期	1	2	3	4	
		日本語リテラシー特講(3)	2	半期	1	2	3	4	
		日本語リテラシー特講(4)	2	半期	1	2	3	4	
2 単 位	⑥教養ゼミ	教養ゼミ(1)	2	半期	1	2			
		教養ゼミ(2)	2	半期	1	2			
		教養ゼミ(3)	2	半期	1	2			
		教養ゼミ(4)	2	半期	1	2			
		教養ゼミ(5)	2	半期	1	2			
		教養発展ゼミ(1)	2	半期			3	4	
		教養発展ゼミ(2)	2	半期			3	4	
		教養発展ゼミ(3)	2	半期			3	4	
		教養発展ゼミ(4)	2	半期			3	4	
		教養発展ゼミ(5)	2	半期			3	4	

データサイエンス・AI教育プログラムについて

●目的

- ・データやAIの特性を正しく把握し、その利点とリスクを評価し、課題解決に向けて適切なアプローチ方法を身につける
- ・多様な学部教育による知識や価値観をベースに、人とのつながりを大切にしたい社会を実現するためにデータやAIを活用する能力を身につける

※プログラム修了のために修得した単位数は卒業に必要な単位数に含まれますが、卒業要件を満たすための必須事項ではありません。

※プログラム修了証を発行するためには、所定の期間内にプログラムの登録を済ませておく必要があります。

●プログラム修了証発行までの流れ

履修科目登録

プログラムに必要な科目の確認・登録をしてください。既修得科目も含みプログラム認定科目として取り扱います。必要な科目は計画的に修得してください。

前期は履修訂正・抽選結果確認期間、後期は後期履修登録・訂正期間終了後の科目追加登録はできませんので、必要な科目が不足しないよう注意してください。

プログラム登録

登録期間に、KONECOの「コース>教育プログラム」画面より登録してください。

プログラム修了に必要な科目の履修・修得状況の確認期間は、登録期間終了後になります。

詳細な日程はKONECOにてお知らせします。

成績発表

前期は8月下旬・後期は2月中旬にKONECOにより成績発表が行われますので、科目修得状況を確認してください。

プログラム修了証の発行

必要科目を修得した場合、プログラム修了証を教務部ロビーの証明書自動発行機より発行します。

文部科学省による認定制度

当プログラムは、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の【リテラシーレベル】に認定されています。

データサイエンス・AI教育プログラムについて

データサイエンス・AI教育プログラムの科目一覧

レベル	必要単位数	分野	配置科目	廃講	単位	開講期	配当年次				備考
							1	2	3	4	
リテラシーレベル	↑ 2単位 ↓	コア科目	データサイエンス・AI入門		2	半期	1	2	3	4	プログラムを修了するために、必ず修得しなければならない科目
		オブション科目	全学共通科目	数学の基礎		2	半期	1	2	3	4
	確率・統計学入門				2	半期	1	2	3	4	
	確率・統計学発展				2	半期	1	2	3	4	
	数学Ⅳ a			※	2	半期	1	2	3	4	
	数学Ⅳ b			※	2	半期	1	2	3	4	
	数学Ⅳ			※	2	半期	1	2	3	4	
	プログラミング入門				2	半期	1	2	3	4	
	プログラミング初級				2	半期	1	2	3	4	
	コンピュータ応用Ⅰ	※		2	半期	1	2	3	4		
コンピュータ応用Ⅱ	※	2		半期	1	2	3	4			

「廃講」の欄に※がついている科目は現在開講されていないため、履修することはできません。

●履修不可対象科目

下表の旧科目名で単位を修得済みの場合、現行科目名を履修することはできません。

現行科目名	旧科目名	廃講	修得年度	
確率・統計学入門	数学Ⅳ a	※	令和2 (2020) 年度以前	
	数学Ⅳ b			
確率・統計学発展	数学Ⅳ a	※		
	数学Ⅳ b			
プログラミング入門	コンピュータ応用Ⅰ	※		
プログラミング初級	コンピュータ応用Ⅱ	※		
確率・統計学入門	数学Ⅳ	※		平成27 (2015) 年度以前
確率・統計学発展				

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103028
学校名 (〇〇大学 等)	駒澤大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人駒澤大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		1,098人	1,058人	1,153人
内訳	第Ⅰ区分	660人	637人	
	第Ⅱ区分	283人	305人	
	第Ⅲ区分	155人	116人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				—
合計 (年間)				1,159人
(備考) 通年休学者・資産要件抵触者を除く				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	16人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	11人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	15人		
計	27人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
	—		

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	166人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	20人		
計	173人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。